

備前市事務事業評価表

事業の概要		コード	01-02-02-02
事務事業名	環境衛生事業		備前市環境衛生指導委員規則
事業開始年度	昭和46年度～		
総合計画	大項目	基本目標	安全で快適に暮らせるまちづくり
	中項目	基本施策	自然と共生するまちづくり
	小項目	施策	環境美化
	問合せ先	担当課(室)	環境課
	職・氏名	衛生係長・森本和成	
	電話	64-1821	

事業の実施	
対象(誰・何に対して)	清潔で快適な暮らしを求める市民
目的(何のために)	市民のボランティア活動の協力を得て、快適な生活環境の保持と環境美化の促進を図り、もって清潔で美しいまちづくりに資する。
行政活動(どのような方法で)	家庭ごみの排出指導、3R(リユース、リデュース、リサイクル)の推進、ごみ一斉清掃の推進、不法投棄防止運動の推進、防疫用薬剤の配布、防疫用機械の貸出
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	家庭ごみの排出マナーの向上、不法投棄のないまちづくり、防疫による清潔なまちづくり

事業の実績							
活動実績	実施項目		単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績	
	環境衛生指導員数		人	200	200	200	
	防疫用薬剤配布数		袋	2,500	2,200	1,800	
	防疫機械貸出数		台	156	127	68	
	直接事業費			5,478	5,382	6,001	
	人件費		千円	12,530	11,405	8,795	
	事業費計			18,008	16,787	14,796	
	国県支出金						
	受益者負担		千円				
	一般財源			18,008	16,787	14,796	
必要人員		人	2.15	2.05	1.01		
結果指標	結果指標名		単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績	
	環境衛生指導員数		説明	委嘱している環境衛生指導員数	200	200	200
結果指標 <td colspan="2">結果指標量</td> <td>人</td> <td>200</td> <td>200</td> <td>200</td>	結果指標量		人	200	200	200	
	対前年比		%	-	100.0%	100.0%	
結果指標 <td colspan="2">活動コスト</td> <td>円</td> <td>2,815,000</td> <td>2,799,700</td> <td>2,814,500</td>	活動コスト		円	2,815,000	2,799,700	2,814,500	
	単位当たりコスト		円	14,075	13,999	14,073	
結果指標 <td colspan="2">防疫機械貸出数</td> <td>説明</td> <td>1年間の防疫機械の貸出数</td> <td>156</td> <td>127</td> <td>68</td>	防疫機械貸出数		説明	1年間の防疫機械の貸出数	156	127	68
	結果指標量		台	156	127	68	
結果指標 <td colspan="2">対前年比</td> <td>%</td> <td>-</td> <td>81.4%</td> <td>53.5%</td>	対前年比		%	-	81.4%	53.5%	
	活動コスト		円	849,100	415,502	366,069	
結果指標 <td colspan="2">単位当たりコスト</td> <td>円</td> <td>5,443</td> <td>3,272</td> <td>5,383</td>	単位当たりコスト		円	5,443	3,272	5,383	

事業の成果			
成果指標名	防疫用薬剤配布数	式又は説明	配布数(下水道が接続されていない地域を中心に、希望により防疫用薬材を配布することにより衛生面の向上を促す。)
成果指標量	17年度	18年度	19年度
	2,500	2,200	1,800
対前年比	88.00%		
	81.82%		
到達目標値	1,200	到達目標年度	29年度

事業の目的、対象、内容を考えて目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		(平成19年度事業)	
目的	<input type="checkbox"/> 開法令等で目的が定められており妥当である(法律・政省令)	妥当性評価<A-E>	B
	<input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である	課題認識	
対象	<input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている	環境衛生思想の普及について、環境衛生指導委員会において検討を行い、検討された方針に基づいて、市民のボランティア活動の協力を得て、ごみの排出指導、ごみステーションの清掃、防疫(消毒)、地区清掃、不法投棄の監視等を行っている。指導委員数について、地域間で格差がある。	
	<input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化している	効率性評価<A-E>	
行政活動	<input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある	C	
	<input type="checkbox"/> 事業の目的を達成するためには、現在の行政活動以外に方法はない	課題認識	
事業の意図する成果	<input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも事業の意図する成果を見直す必要はない	環境衛生指導委員会、市民のボランティア活動の協力を得て、事業を行っているために市が直営で業務を行っている部分は少ない。防疫用薬剤については、本来の使用目的以外で薬剤を使用している市民がいる。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請の強い事業である	有効性評価<A-E>	
市の関与	<input type="checkbox"/> 本市が関与しなければならない事業である	C	
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は大きい	課題認識	
コスト	<input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は克服できる範囲内である	環境衛生指導委員会、市民のボランティア活動の協力を得て、事業を行っているために市が直営で業務を行っている部分は少ない。防疫用薬剤については、本来の使用目的以外で薬剤を使用している市民がいる。	
	<input type="checkbox"/> コスト削減の努力をしており、低減余地は大きい	有効性評価<A-E>	
効率性の評価	<input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、低減余地は小さい	C	
	<input type="checkbox"/> サービスを低下させずにコストを低減することは困難	課題認識	
手	<input type="checkbox"/> 受益者負担額を見直す余地がある	環境衛生指導委員会、市民のボランティア活動の協力を得て、事業を行っているために市が直営で業務を行っている部分は少ない。防疫用薬剤については、本来の使用目的以外で薬剤を使用している市民がいる。	
	<input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない	有効性評価<A-E>	
職	<input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善している	C	
	<input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある	課題認識	
目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている	環境衛生指導委員会、市民のボランティア活動の協力を得て、事業を行っているために市が直営で業務を行っている部分は少ない。防疫用薬剤については、本来の使用目的以外で薬剤を使用している市民がいる。	
	<input type="checkbox"/> 事業に関するOJT(職場研修)は行われている	有効性評価<A-E>	
成果向上の可能性	<input type="checkbox"/> 事業実施について、職員の意見・要望が反映されやすい	C	
	<input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである	課題認識	
市民参画度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している	環境衛生指導委員会、市民のボランティア活動の協力を得て、事業を行っているために市が直営で業務を行っている部分は少ない。防疫用薬剤については、本来の使用目的以外で薬剤を使用している市民がいる。	
	<input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである	有効性評価<A-E>	
有効性の評価	<input checked="" type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある	C	
	<input type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している	課題認識	
目的達成度	<input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している	環境衛生指導委員会、市民のボランティア活動の協力を得て、事業を行っているために市が直営で業務を行っている部分は少ない。防疫用薬剤については、本来の使用目的以外で薬剤を使用している市民がいる。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	有効性評価<A-E>	
成果向上の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている	C	
	<input type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している	課題認識	

平成20年度の状況		説明	環境衛生指導委員会の定数を200人から264人に増やし、指導委員数の地域間格差を是正し、更なる環境衛生思想の普及を図る。	
<input checked="" type="checkbox"/> 重点化している	<input type="checkbox"/> 休止している			
<input type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合している			
<input type="checkbox"/> 見直し継続している	<input checked="" type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了			
<input type="checkbox"/> 事業を縮小している				
目標値	結果指標量	264	結果指標量	68
	成果指標量	1,700		

総合評価		評価区分<A-E>	C
環境衛生指導委員の定数増により、更なる環境衛生思想の普及を図る。防疫用薬剤については、本来の使用目的以外で使用している人がいるため、使用方法の指導を行えば、配布数は減になりコスト削減につながる。防疫用機械については、使用後の効果は1ヶ月ほどしかなく、成虫は殺せても卵までは殺せない。また薬剤を使用するため、危険な機械である。貸出数は、年々減ってきているが、貸出には十分注意を図る必要がある。			

平成21年度以降の方向性	
<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する)	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する
<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する
<input type="checkbox"/> 平成20年度で廃止・完了	

平成21年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
効率性	防疫用薬剤の使用法の徹底	H20～	配布減 コスト削減